

◎ ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -

福本潮子「風のなごり-1980年代の仕事を中心に」 FUKUMOTO Shihoko: *Sign of Wind - Focus on the works from the 1980s*



《風のなごり》(部分)トルファン綿、藍 | 浸し染、養老絞、プリーツ絞、脱色染 180 x 400 cm 1987年
pp.1-2 | 撮影: 来田猛(p.2 参考作品を除く)

この度、アートコートギャラリーでは福本潮子による個展を開催いたします。

1970年代後半より藍染による作品制作を始めた福本潮子。藍の伝統・素材への飽くなき探求、独自の技術と世界観が融合し生み出される表現は染色や工芸の枠を超え、常に新鮮な驚きをもたらしてきました。

本展は、半世紀近くにわたり革新的な作品を生み出し続ける作家の活動初期にあたる1980年代に焦点をあてます。藍の表現者としての出発点とも言えるプリーツによる半立体の作品《風のなごり》(1987)を中心に、最初期作《潮騒》(1979)、絞り技法や藍のグラデーションによって自身の宇宙観を表現した《天空》《時空》シリーズ、さらに当時の未発表作品などを交えて構成します。

卓越した感性を藍に託して一枚の布に秘められた奥行きを引き出し、海の深い青からたなびく大気、透き通る空、その向こうに広がる宇宙まで、あらゆる自然を包摂する福本の藍表現の原点を、ぜひご高覧ください。

【展覧会概要】

題名 : 福本潮子「風のなごり-1980年代の仕事を中心に」
FUKUMOTO Shihoko: *Sign of Wind - Focus on the works from the 1980s*

会期 : 2026年2月21日 [土] - 4月11日 [土] *日祝 休廊

会場 : アートコートギャラリー

開廊時間 : 11:00-18:00 [土曜日-17:00]

主催: アートコートギャラリー(株式会社八木アートマネジメント)

協賛: 三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

◆ 関連イベント

2月21日 [土] 15:00-17:00 | レセプション

3月18日 [水] 18:00-20:00 | アーティスト・トーク

福本潮子 × 名和晃平 (彫刻家、Sandwich Inc.主宰)

*予約制 (先着20名様)

ご予約はメールまたは電話にて承ります

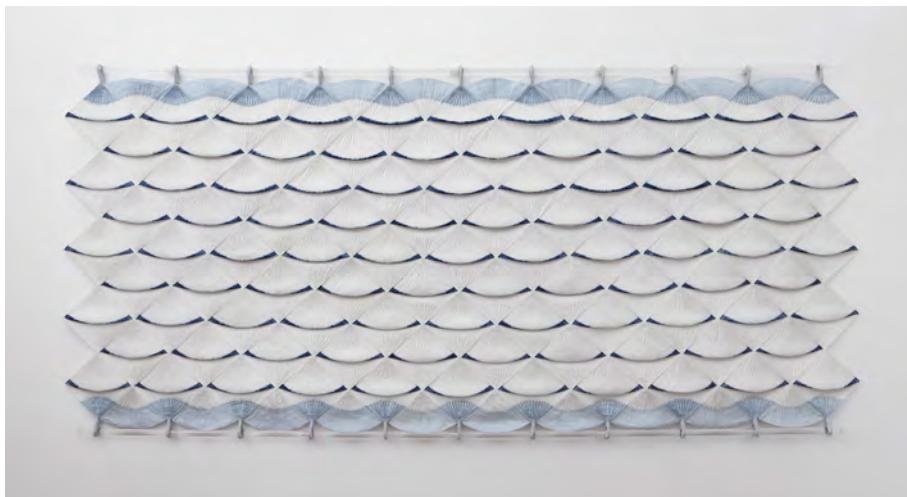


《天空-V》
手縫み苧麻(開田高原産)、藍 | 折疊縫絞、大帽子絞、脱色染
200 x 180 cm 1983年

【お問い合わせ】アートコートギャラリー【担当: 清澤・灰田】※ビジュアル資料をご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

◆ 主な出展予定作品



《風のなごり》
トルファン綿、藍 | 浸し染、養老絞、プリーツ絞、脱色染
180 x 400 cm
1987年



《時空 3》
亞麻、藍 | ぼかし染、脱色染、大帽子絞、しみ染、よろけ加工
210 x 200 cm
1991年

〔作品解説〕

自身の「理想の空間意識」を表現するための「青」を探し求めていた福本潮子は、1970年代中頃に藍と出会い、単なる色彩ではなく、水と空気を介して繊維に浸透し、美しく映える実体としての藍の青に魅せられます。同じ時期、絞りと浸染の技法を用いて制作する中で、絞りの糸を外す前の布の皺や膨らみにインスピレーションを得て、プリーツ状に折り畳み縫つて染めた布の糸を部分的に解かずには残すことで、細かな襞をもつ扇形が反転しながら連続するレリーフ状の作品を続けて発表。第1回日本新工芸展、第32回京都工芸美術展(共に1979年)で大賞を受賞するなど、大きな注目を集めました。

今回、約36年ぶりに公開される《風のなごり》は、1987年にローザンヌで開催された第13回国際タピスリービエンナーレに出品され、福本の藍の表現が国際的に認知される契機となった作品です。空気に触れることで発色する藍は、プリーツの山と谷の染まり具合の差で布の襞構造をより際立たせます。《風のなごり》に先立って制作された《さざ波》シリーズ(1985)では、難しいと言われる藍の中間色～淡色の染めを自在にコントロールできる福本独自の技法“脱色染め”¹によって複雑に染め分けられた藍の濃淡が、布がつくる立体的な空間と結びつき、精緻なイメージ空間が実現されました。そして、70年代後半からおよそ10年をかけて洗練を重ねた一連のプリーツ作品の集大成とも言える《風のなごり》は、ブルーの染め分けによるパターンを活かしつつも、生地の大半を白く染め残すことで僅かな藍を際立たせるという、大胆な発想から生まれました。「藍が美しくきわだてばきわだつほど白の存在感が増す。」と作家自身が述べるように、そこには、布地を単なるニュートラルな支持体ではなく、表現の重要な一部と捉え、布と藍の関係性の中で立体的に表現を成立させていく、現在まで一貫した作家の姿勢が早くも明確に表れています。繊細な輝きを放つトルファン綿²の白のあわいに現れては消える藍の色彩。双方が織りなす抑揚に満ちたりズムで鑑賞者を包み込む本作について、福本は「作り手の意識を越えて存在から自然と発せられるもの、自分以上の何かを現すことができた。」と振り返ります。

《天空》シリーズ(1983～)は、1980年代初頭にブータンの寺院で見た円と線のみで描かれた曼荼羅に着想を得て、作家が自身の内に感じる宇宙の摂理をイメージし、滑らかなぼかしが染まる苧麻の手績みの布³に大きな円、そして青の階調と青海波の紋様を重ね染め抜いた作品群です。その後に続く《時空》シリーズ(1991～)では、伝統的な紋様である青海波を使うのをやめ、白とせめぎ合うグラデーションに置き換えることで、深い藍色と静謐で緊張感のあるコントラストを生み出しています。さらに、しみ染⁴やよろけ加工⁵といった独自の技法と布地を2枚重ねることにより、抽象化されたイメージが多層的に揺れ動きます。空間のみならず時間、そして観る者の内なる意識へと浸透してゆく作品群は、その後の福本の作品展開を方向づける軸となりました。



〔参考作品〕
《さざ波 - IV》
トルファン綿、藍 | 養老絞、プリーツ絞、脱色染
175 x 225 cm
1985年
撮影: 岩山崇

- 一度濃い藍色に染めた布を、灰汁を入れて沸騰させた湯に浸け、化学的還元剤のハイドロサルファイトを用いて脱色しながら藍の粒子を還流させて階調を生み出す技法。
- 中国新疆ウイグル自治区のトルファンで栽培されてきた木綿。繊維が非常に長く絹のような手触りと光沢を持つ。近代化が進む中で絹の収穫・生産も機械化され、1980年代以前と同等の品質のものは入手が困難。
- 昔から長野県の開田高原では手績みの大麻布の生産が盛んだった。しかし戦後GHQによって大麻の栽培が禁止され、代わりに苧麻で手績の布が作られるようになった。しかし手間のかかる手績の織物は採算が合わず農作物に切り替わり、わずかな期間で生産されなくなった。
- 乾いた布に染みを付けるようにして染める技法。
- 緯糸をよろけ状に乱れさす技法。

◆ 福本潮子 Fukumoto Shihoko

- 1945 静岡県清水市に生まれ、大阪で育つ。
- 1963 大阪市立工芸高校洋画科卒業。卒業制作では、プレシャン・ブルーの油絵具を塗り重ね、深く透明感のある空間を求める。
- 1968 京都市立美術大学西洋画科卒業。在学中は納得のいく青の表現を模索し、焼付け塗装や珐瑯などで実験的な作品制作を試みる。第21回具体美術展(グタイピナコテカ、大阪)出展。この頃、具体美術協会やもの派の展覧会など、当時の前衛的な表現に積極的に触れる。
- 1971 木村重信の指導のもと企画されたニューギニア探査に探検部OBとして参加。現地の自然、生活や信仰と密接に結びついた美術に衝撃を受け、「借り物ではない美術」を目指し自身の制作を見つめ直す。
- 1970年代中頃 二代龍村平蔵のもとで学ぶため、龍村美術織物に勤める。龍村の糸染職人とともに訪れた野洲の藍染工房で、絹の総糸を藍で染めた美しいグラデーションを目にし、自分が求める「青」のイメージの可能性を感じる。同時期、一から始めるつもりで絞りの研究、制作をおこなう。
- 以後、京都を拠点に国内外の多数の展覧会に参加。
- 2012 第25回京都美術文化賞(中信美術奨励基金)
- 2014 第32回京都府文化賞功労賞(京都府) 他受賞多数

|主な個展|

- 2025 福本潮子藍の海(セイコーハウスホール、東京)
- 2022 JAPAN BLUE 福本潮子の藍色の世界(フェルケール博物館、静岡)
- 2021 福本潮子展 藍の青 2021(アートコートギャラリー、大阪)[’15, ’12, ’03]
- 2020 歴史を紡ぐ・今を染める:福本潮子 藍と白(尼崎市総合文化センター、兵庫)
- 2018 福本潮子展布を藍で染める(中信美術館、京都)
- 2010 Shihoko Fukumoto: Indigo is the Color of My Dream(ポートランド日本庭園)
- 2005 SHIHOKO FUKUMOTO: MOON LIGHT(Bellas Artes、サンタフェ)[’01, ’98, ’95]
Expressies in Indigo, Textielkunst van Fukumoto Shihoko(ロッテルダムワールドミュージアム)
- 2004 EXPRESSIONS IN INDIGO the textile art of Fukumoto Shihoko(Daiwa Foundation Japan House、ロンドン)
福本潮子展立礼の席(山口県立美術館・浦上記念館、山口)
- 1996 福本潮子藍染展 現代を染める—藍色の空間とイメージ(辰野美術館、長野)
- 1993 SHIHOKO FUKUMOTO shades of indigo blue(高島屋美術画廊、ニューヨーク/東京/京都) *《時空》シリーズ出品。
- 1992 SHIHOKO FUKUMOTO(ギャラリーKuranuki、大阪)[’97, ’98]
- 1991 時空シリーズ 福本潮子作品展(高島屋美術画廊、大阪) *《時空》シリーズ出品。
- 1990 SHIHOKO FUKUMOTO: JAPANSK INDIGOBLATT(ラムホルツ・ニブロ・パビリオン、ストックホルム)
SHIBORI-INDIGOBLATT Japansk textilkonst av SHIHOKO FUKUMOTO(ロスカミュージアム、イエテボリ) *《風のなごり》他 出品。
- 1987 SHIBORI: INDIGO BLUE by SHIHOKO FUKUMOTO(Gallery Urban、ニューヨーク) *《天空V》出品。
- 1983 福本潮子絞り タピストリー展(ギャラリーマロニエ、京都) *《天空》シリーズ出品。

|初期および近年の主なグループ展|

- 2025 藍と紅のものがたり(大倉集古館、東京)
- 2024 藍のものがたり(久留米市美術館、福岡)
- 2023 ACG Villa Kyoto Vol. 014:西野康造、福本潮子を中心に(ACG Villa Kyoto、京都)[’19]
発現する布オセアニアの造形と福本繁樹／福本潮子(国際芸術センター青森)
- 2022 北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 2022(勝興寺、高岡)
コレクション展2 BLUE(金沢21世紀美術館、石川)
- 2020 国立工芸館 石川移転開館記念展 I 工の芸術素材・わざ・風土(国立工芸館、石川)[’21]
京都の美術 250年の夢(京都市京セラ美術館)
- 2019 京都の染織 1960年代から今日まで(京都国立近代美術館)
- 2017 交わるいと「あいだ」をひらく術として(広島市現代美術館)[’18]
- 2016 革新の工芸 “伝統と前衛”、そして現代(東京国立近代美術館工芸館)
- 1989 日仏現代美術展(東京都美術館／国立グランパレ美術館、パリ)[’88]
- 1987 第13回国際タピスリー・ビエンナーレ展(ローザンヌ州立美術館) *《風のなごり》初出。[’89, ’92 / 第15回以降は国際ローザンヌ・ビエンナーレ展]
- 1986 INDIGOnatural blue(王立トロペン博物館、アムステルダム)
工芸—世紀末の旗手たち展(サントリー美術館、東京) *プリーツ作品《風》初出。
- 1985 福本潮子藍染展 福本繁樹染色作品展(ギャラリーマロニエ、京都) *プリーツ作品《さざ波-III》《さざ波-IV》初出。
- 1981 第3回エンバ賞美術展(エンバ中国近代美術館、芦屋) *プリーツ作品《バイオレット・セレモニー》初出。
- 1979 第1回日本新工芸展(渋谷東急本店、東京/京都高島屋、京都) *プリーツ作品《潮騒》初出。大賞受賞。
第32回京都工芸美術展(京都府立文化芸術会館、京都) *プリーツ作品《潮騒》初出。大賞受賞。
- 1978 第2回京都工芸美術選抜展(京都府ギャラリー、京都) *プリーツ作品《黒潮》初出。買上賞受賞。
- 1977 第30回京都工芸美術展(京都府立文化芸術会館、京都) *藍染作品を初出品。

|主なパブリックコレクション|

金沢21世紀美術館／京都国立近代美術館／国立国際美術館／東京国立近代美術館／公益財団法人小田原文化芸術財団／ヴィクトリア&アルバート博物館(イギリス)／ミュージアム・オブ・アート&デザイン(アメリカ)／ロスカミュージアム(スウェーデン)／ポートランド美術館(アメリカ)／ロッテルダムワールドミュージアム(オランダ)／ウィットワース・アートギャラリー(イギリス)／クリーブランド美術館(アメリカ)／ロサンゼルス・カウンティ美術館(アメリカ)／ボストンミュージアム(アメリカ)／チェコ国立プラハ工芸美術館(チェコ)